釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和６年（2024年）５月20日発行　VOL ８

教育委員会は強い味方

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

先週の金曜日（17日）に、釧路市教育委員会から齋藤学校教育部長をはじめ５人の職員の皆さん、釧路教育局から２人の職員の皆さん、計７人の皆さんが本校に来校されました。釧路市教育委員会が主催する「１次訪問」が実施されました。１時間目から３時間目まで全ての教員の授業を参観し、４時間目に参観した授業と学校経営に対する指導助言をいただきました。教育課程の改善や校内研修を基盤とした組織的な授業づくりについて評価をいただいた一方で、校長の組織マネジメントについて課題を御指摘いただくとともに、具体の改善策を指導助言していただきました。今後の学校づくりに向けて、とても貴重な機会となりました。また、先月には岡部教育長（釧路市教育委員会）も本校を訪問され、教職員の頑張りを評価していただくとともに、激励の言葉をいただいたところでした。そして、今後も授業公開に合わせて、釧路市教育委員会、釧路教育局の指導主事の皆さんが来校され、授業改善等について指導助言をいただくことになっています。このように、年間複数回、教育委員会の皆さんが市内の小・中学校、義務教育学校を訪問します。

保護者や地域の皆さんは、「教育委員会」にどんなイメージをもっているでしょうか。学校にとって何となく煙たい存在ではないかと感じる方もいるのではないでしょうか。また、管理職や教職員の中には苦手意識をもっている者も少なくないと思います。

しかし、教育委員会は学校にとって頼もしい存在です。学校が教育委員会とよい関係を構築することは、自校の教育活動を進めていく上でとても重要です。教育委員会がどのような思いをもって、どのような仕事をしているのか、それを知り、理解することで、学校経営に当たっての強い味方になってくれると考えます。

教育委員会の学校教育に対する仕事は、大きく３つあると思います。１つ目は、「学校をリードすること」です。教育委員会は学校に対して、これからの教育の方向性、求められる力、培うべき力などを示してくれます。先述した「１次訪問」において、寺嶋指導主事と佐藤指導主事は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められていることを教えてくれました。２つ目は、「学校を支援すること」です。生徒指導の問題などで学校が困っていると、指導主事を派遣して一緒に対応に当たってくれたり、いろいろな事例を参考にして適切な指導助言を行ってくれたりします。３つ目は、「学校を管理すること」です。生徒たちが充実した教育を受けることができるよう、学校規模や配置、施設設備、教職員配置、予算などを考えてくれます。そして、学校や生徒、地域の状況をよく知る校長の思いを受け止めながら、全体のバランスを考えて各種の取組を進めてくれています。

学校があっての教育委員会、教育委員会があっての学校です。学校と教育委員会がしっかり連携・協働することで、よりよい教育を推進していくことができるのだと思います。